

野の仏ギャラリー⑭

準胝(准提) 観音坐像

南多久町龍照寺

光背・蓮華台と一体化した坐像です。宝冠中に蓮華台に載つた化仏を置き、顔は端正で額に白毫があります。右手は施無畏印、左手は親指と中指で輪を作り印としています。光背に刻まれた右手は鉤(鉤)、左手は幢幡を持ち、持物を持たない手が左右に一手ずつあります。準胝(准提) 観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の一つです。罪を滅し、大難を逃れ、清廉潔白にするとされます。

銘「西國第十一番本尊準提観音 山城國上醍醐寺」
「石工 厳木住人三塩清美 昭和八年四月吉日」 他



○施無畏印は畏れなくてもよいという印です。
○鉤(鉤)は先の曲がった金具です。
○幢幡は仏堂などに飾る旗です。
○山城國上醍醐寺は現在の京都市にあります。
多久市郷土資料館長 藤井伸幸

今月の論語

天を怨みず
人を尤めず

運が悪いからと言って、天を恨んだり人のせいにしてはいけません。

今月の帰宅放送は、東原庵舎中央校9年の白水聖風さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「里親」

たまたまテレビの特集を観て、思わず姿勢を正して画面にくぎ付けになった。かつて、勤めた学校で気にしていた子が、映し出されていたから。

その子は、背は高く羨ましかったのに、うつむき加減で暗い影を感じた。母と妹と三人暮らし、母が酔うと食事もなく入浴もせずという暮らしぶり。それでも、朝になると登校してくるのが、いじらしく愛おしかった。その母には、優しくもしたが叱りもした。偶然にも最期の看取りまでした。身寄りのない娘たちは、施設に入所した。

その後、施設から里親さんに引き取られていたのだ。結婚し子を授かっていた。ふくよかで穏やかな表情になり、里親さんに「お母さん」と甘えていた。幸せが伝わって安堵した。里親制度は、貴くてありがたいものです。

教育長 田原優子

市民文芸

◆後悔と反省ばかりの日々だった
時間と愛に取り残されて
野崎 隆幸

◆黄金の景色に染まる麦畑
乾いた音で風に波立つ
川浪 信子

◆孫栗立ち 初給料で買いくれし
デコボンの味今も忘れず
梶原恵美子

◆欠席のわが枕辺にバナナ二個
祖母置きくれし 麦秋の季
浦野 嘉恵

◆カタカナ文字 遣う人増え日本人の
心の奥が浅くなり行く
尾形 節子

◆袖口を二つ三つ折る 薄暑かな
読み返す 彼の手紙や麦の秋
中嶋 清子

◆夏大根 厨に辛み満たしけり
移り来て三十年の花みかん
本村 則子

◆梵鐘の音を身ぬちに 新樹光
おおよはな
武富 律子

◆傘さしてくれた友にも 梅雨雫
雨だれの音ジャズにポップス
大谷 和

◆コロナうつ 癒す元気な孫の声
三塩不二子
高塚ちかこ

◆足るを知らず 幸からは遠い人
松下 修

◆満天の星もう許すことにする
田代まつこ

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会互選》